



## Q. 道徳教育の教科化について

### A. 全教師が協力して道徳教育を展開

熊沢 直紀 議員

**Q** 安倍内閣発足により、道徳教育の教科化が議論提言されている。

本年4月の読売新聞「道徳」の教科化の調査によると「賛成」は84%で「反対」はわずか10%とのこと。

現在、道徳の時間の実態は、各教科の格下げ扱いをされており、未履修が一番多いらしい。特に中学校では、道徳の時間は他の行事に振り変えられやすいとのこと。さらに副読本をまとめて買って棚に置いておき、何年も使いまわすということが行われている学校もあるとのこと。

教師の考えを述べ指導すれば、「やっではいけない教え込みをやりましたね」と言われ、これでは子どもたちの道徳性はなかなか育たないではないか。

いろいろ述べたがそれぞれについての教育長の所見を問う。

**A** 道徳の教科化については、世論の動向が未だ定まっていないと感じています。

町内の各小中学校では、年度初めに道徳教育の全体計画を立て、全教師が協力して道徳教育を展開している。また、道徳の時間についても、全学年が、法で定められた標準時間以上実施している。

副読本についても学年一人冊配布しており、他学年と共有はしていない。

道徳の時間は、教育活動の様々な場面で培われた道徳性を補ったり、深めたり、道徳的価値に目覚めさせたり、自己の生き方について考えさせたりする時間であると認識しており、教師側から一定の考えを植え付けてはならないものと考えている。しかし、道徳以外の教育指導の中では教師の考えを述べ、直接的な指導をすることはあり得る。



現在使われている道徳の教科書